

## 百人一首における作者像の研究 —菊川英山の挿絵—

宮本 友季恵

『小倉百人一首』とは、鎌倉時代初期に成立した和歌集である。撰者は藤原定家であり、一歌人につき一首、計百首が収められている。『小倉百人一首』は初め、山荘に飾るための色紙に書く歌として定家が撰じたものであった。後に歌集としてまとめられ、二条派で注目されたことから後世に継承された。江戸時代に入ると、『小倉百人一首』は和歌の教科書としての役割を担うようになった。そのため、歌とともに様々な知識が収録されたり歌人の絵が挿入されたりと、様々な種類の『小倉百人一首』が出版されていた。

『小倉百人一首』の歌人の挿絵を描いた絵師は数多く存在したが、その多くは名前が不明である。しかし、菊川英山は、『小倉百人一首』の挿絵を描いた絵師のなかで有名になった絵師である。菊川英山は江戸時代後期に活躍し、美人画を得意としていた。菊川英山の絵は浮世絵の研究は進んでいるが、挿絵の研究は進んでいない。

本研究の目的は、菊川英山が描く挿絵の独自性を明らかにし、彼が江戸時代の代表的絵師となった理由を考察することである。また本研究により、江戸時代の人々が持っていた百人一首の歌人のイメージの解明に役立つことが期待される。

本研究では、菊川英山が挿絵を描いた『御家百人一首千歳文庫』の歌人像と、『女訓宝文庫』、『鶴寿百人一首』、『永寿百人一首宝蔵』、『慶寿百人一首』、『金寿百人一首』の 5 種類の『小倉百人一首』の歌人像を比較する。他 5 種類の歌人像には共通しているが、菊川英山の歌人像では異なる表現をしている部分を調査し、分析を行う。

比較調査の結果、他 5 種類の『小倉百人一首』の歌人像には共通しているが、菊川英山の歌人像では異なる表現をしている部分がある歌人像は 47 首存在した。菊川英山が描く歌人像にのみ見られる表現方法の特徴として、小物の描きかた、着物の描きかた、人物の姿勢の描きかた、顔の描き方の 4 つが挙げられることが判明した。他 5 種類の『小倉百人一首』の歌人像では、各歌人像が共通の表現方法で描かれており、その共通の表現方法がその歌人像の定型であると言える。しかし菊川英山は、小物、着物、人物の姿勢・顔をその歌人像の定型から外れた表現方法で歌人像を描いている。この定型から外れた表現方法こそ、菊川英山の挿絵の独自性であることが明らかになった。

今後の課題として、菊川英山独自の表現方法で描かれた歌人の背景を調べ、なぜ菊川英山がその表現方法でその歌人を描いたのか、詳しく調べる必要がある。

(指導教員 綿抜豊昭)